

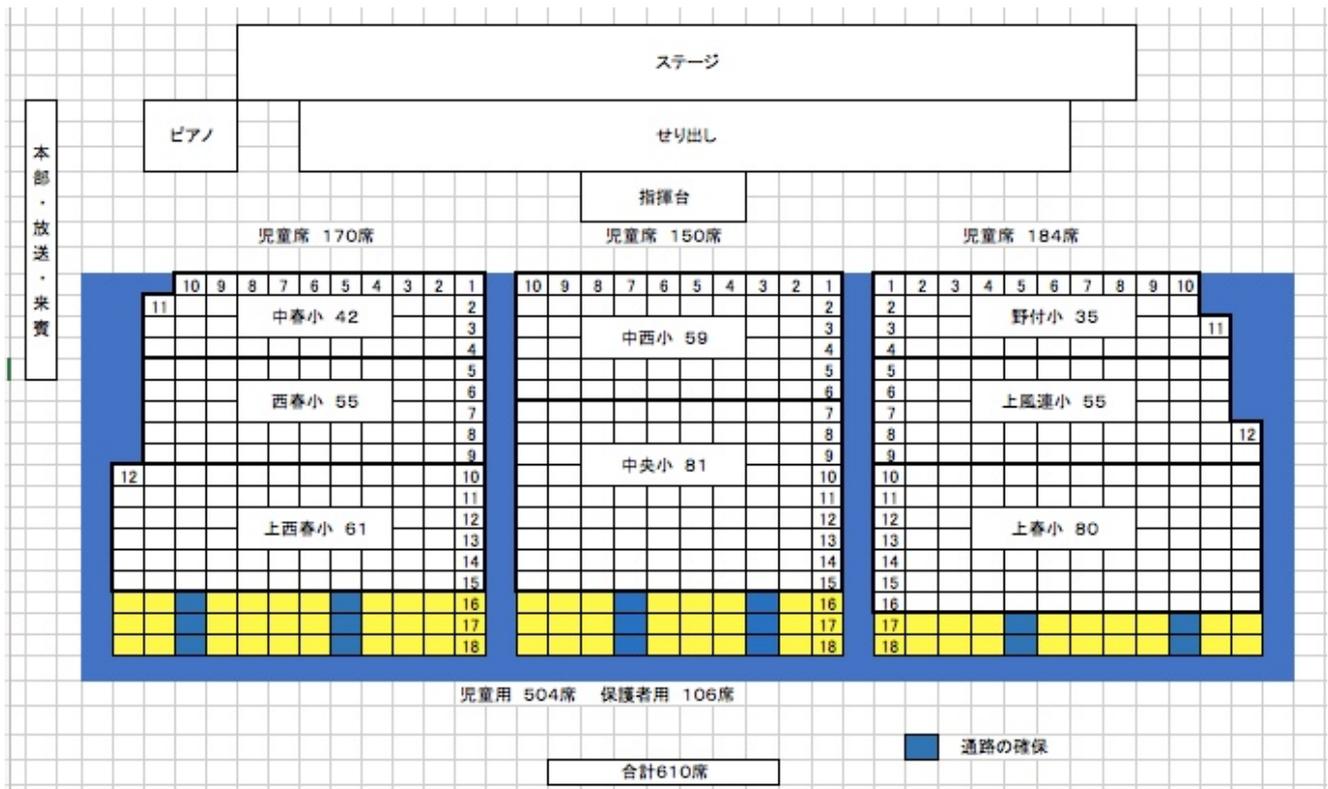
**平成29年度第1回住民懇話会
における意見・提案について**

**小中高校合同音楽祭に
おける動員人数について**

●小中高校合同音楽祭

趣 旨	各学校の合唱・器楽・吹奏楽演奏等が日頃の練習の成果を発表しあい、交流を深め、互いの向上につながる機会とする。
主 催	町内各学校教職員等からなる実行委員会形式
事務局	町内いずれかの小中学校
予 算	交付金(所管:教育委員会 生涯学習課)
期 日	年1回 10月下旬から11月初旬
対 象	小中高校生(発表者) 1日あたり460名程度

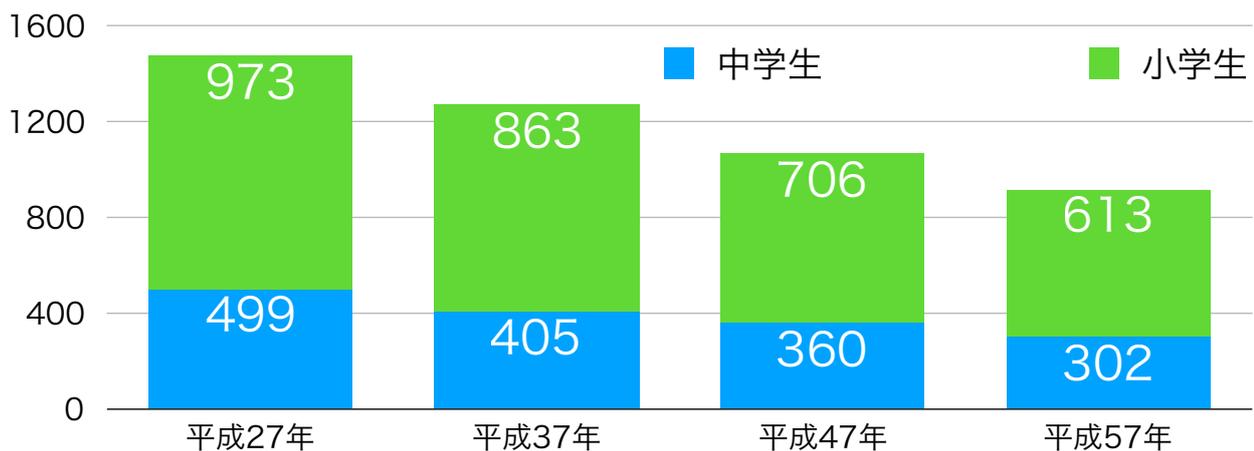
●小中高校合同音楽祭席配置





◎全町的な児童・生徒への鑑賞事業

校種	学校数	児童・生徒数
小学校	8校	959名
中学校	8校	497名
高等学校	1校	275名
合計	17校	1731名



鑑賞事業の実施状況 と 座席数の関係について

●鑑賞事業の実施について

A)自主事業(買取番組)

施設の運営者が主催者として鑑賞事業を実施する場合

出演者や機材、スタッフ等全ての制作を企画会社に委託。全道規模のツアーの1公演分を購入する場合も多い。

●メリット

鑑賞事業の選択権を施設運営者(行政)が持つことで、住民の望むプログラムとバランスが取れた鑑賞プログラムを選定・実施することができる。

●デメリット

チケット収入がある場合でも、全ての委託額を予算として先に確保する必要がある。十分な収入が確保できなかった場合、結果的に公金から支出となる。

●鑑賞事業の実施について

B)興行(貸館事業)

コンサート・イベント企画会社が実施する場合

企画会社が、その地域に適した鑑賞事業を自ら企画し開催する。施設は、事業者と共催することで使用料の減免や開催地向けチケットの販売を行うなど開催しやすい環境を作る。

●メリット

予算について全てが企画会社持ちとなるため、直接的な金銭の負担がなく鑑賞機会を提供することができる。

●デメリット

動員に結びつくプログラムが優先されるため、住民の求める内容とは異なる場合がある。利益を出すことが難しい地域や環境にあっては、そもそも興行が実施されない。





●札幌コンサート(仮)補助事業の場合

対象	児童生徒を含む一般町民全体 400名程度
補助者	地方電力会社による協賛
補助対象 経費	札幌楽団員等出演料(65名 730万円)
予 算	総額 790万円程度 出演料730万円 印刷費17万円 団員食費10万円 広告費5万円 アウトリーチ10万円 運営的経費18万円
実負担額	60万円 400名想定時チケット @2000円
デメリット	補助は、3年間隔での採択となる。